

シリーズ 3, 富山で育つ宿根草の組み合わせとデザイン⑬

職藝学院

教授 渡邊美保子

タイム・ロンギカウリス

タイムは、シソ科イブキジャコウソウ属の植物の総称で、葉に香りをもつ多年生植物です。一見、草のように見えますが茎はやがて木質化します。タイムは、ハーブとしてたくさんの種類が利用されていますが、花壇で一番おすすめするのは、地中海沿岸原産のタイム・ロンギカウリスです。乾燥した場所を好むタイムの中でも、この種類は日本の梅雨のじめじめにもよく耐え寿命も長いようです。

このタイムは、高く立ち上がることがないため、あっという間に地面を覆うように広がるので雑草の侵入を抑え、おまけに踏まれてもびくともしない柔軟性もあります。また、茎は地面を這うように伸びてゆき、節のところから短い根っこを伸ばし、土の栄養を取り込みながら前進してゆきます。むき出しの裸地があればどんどん浸入します。生長が早いので一株植えると、一年で座布団一枚分ぐらいに広がりますし、その上を歩くと葉がこすれてよい香りの粒が飛び交います。



写真1：タイム・ロンギカウリスの花
5月初旬

花は、桜色の小花が集まって、ぼんぼりのように立ち上がり、5月の連休の頃には一面ピンクのカーペットのようになります(写真1)。イギリス人に愛されているシェイクスピアの作品、「夏の夜の夢」に、妖精の女王が住んでいる野生のタイムが咲き乱れる堤が登場します。その憧れなのか、イギリスのハーブガーデンを訪れると、いろいろな種類のタイムを混ぜて植えた色とりどりの花壇をよく見かけます。

広い敷地をお持ちの方は、水はけが良くなるように山砂でゆるやかな土手をつくり、いろいろなタイムを植えてみるのはいかがでしょうか。ロマンチックな香りの絨緞を楽しめます。



写真2：タイム・ロンギカウリスで縁取られた宿根草花壇
10月中旬

デザインのポイントは、一年中、緑の葉を保つため、花壇の縁取りとして帯状に植栽するのがよいでしょう(写真2)。その後ろに草丈がだんだん高くなるように一年草や宿根草を組み合わせると立体的になりますし(写真3)、冬になって花壇がさびしくなる時でも、手前は緑に縁取られているので花壇が引き締まります。好む場所は、日当たりがよく、水はけのよい土なら肥料はほとんど必要がありません。栽培のコツは、広がりすぎるため、ほかの植物と喧嘩をしないように、根をはがして間引いてあげることぐらいです。



写真3：タイム・ロンギカウリス、ワスレナグサ、チューリップ、ビオラ
5月初旬